

分子標的薬投与後のサルベージ手術症例の検討

1. 研究の対象

2017 年 1 月～2024 年 10 月に当院で肺癌に対する分子標的薬投与中に治療抵抗性病変に対し手術を受けられた方。

2. 研究の概要

治療抵抗性の病変に対し手術を行うことをサルベージ手術と言い、その有効性と安全性はまだ議論の余地があります。当院でのサルベージ手術の経験を踏まえ、その有効性や安全性について検討をします。

研究期間: 総長の研究実施許可日～2026 年 3 月 31 日

研究目的: 分子標的薬の進歩により、進行・再発肺癌においても長期間病勢が制御される症例が増えてきています。しかし、分子標的薬投与中に治療抵抗性の病変がしばしば出現します。治療抵抗性の病変に対し手術を行うことをサルベージ手術と言い、その有効性と安全性について検討いたします。

研究方法: 研究対象者の方の診療録を後ろ向きに調査し、肺癌の治療経過、術式ごとの予後を検討し、背景因子、治療方法なども評価します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、分子標的薬治療歴、病理所見等。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪国際がんセンター 呼吸器外科 小林 政雄

住所: 〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話: 06-6945-1181

研究責任者: 呼吸器外科 岡見 次郎

-----以上